

## 製造時期によるヘモダイアフィルタの溶質除去能の違い

医療法人社団豊済会下落合クリニック

天野雄介、小野里菜、小桑理香、松戸伶美、島田良太、伊藤瑛莉菜、守屋直祐、  
原嶋美幸、武藤かおり、横井良、菊地勘

【目的】異なった時期に製造された東レ・メディカル社製モイストタイプヘモダイアフィルタ NVF-21H(以下 NVF) を使用し、溶質除去能の違いを比較検討した。

【対象】前希釈 On-line HDF を施行している維持透析患者 5 名。

【方法】初回製造、一年後製造の NVF 使用時に採血を行い、 $\beta_2$ -MG、 $\alpha_1$ -MG の除去率を測定した。また透析液の廃液を貯留し、 $\beta_2$ -MG、 $\alpha_1$ -MG の除去量、Alb 漏出量を測定した。

【結果】除去率 (%) は初回製造、一年後製造それぞれ、 $\beta_2$ -MG は 69.7、78.3、 $\alpha_1$ -MG は 9.6、17.1 で、 $\alpha_1$ -MG は一年後製造が有意に高値を示した。 $\beta_2$ -MG 除去量(mg)の差は見られなかった。 $\alpha_1$ -MG 除去量(mg)、Alb 漏出量(g)はそれぞれ 34.4、102.7 と 0.5、2.7 であり一年後製造が有意に高値を示した。

【考察・結語】NVF の低分子蛋白の溶質除去能は製造時期によって大きく異なっていた。これは初期の意図的に除去性能を抑えることで Alb の過剰な漏出が生じないようにしていた膜から、現在の品質が安定したことで性能を抑える必要が無くなった膜へ切り替わったためと思われた。